

# リーディングスキルの視点に基づく授業改善

リーディングスキル (RS) とは、**汎用的な基礎的読解力**であり、教科書や新聞、マニュアルや契約書などのドキュメントの意味および意図を、迅速かつ**正確**に読み取る力である。また、国立情報学研究所 (研究代表者：新井紀子教授) が考案した**リーディングスキルテスト (RST)** は、人間の読解プロセスから導き出された以下の**6つの問題**から、その力を測っている。

## ①「係り受け解析 (DEP)」

・主語・述語や修飾語・被修飾語など、文を構成する要素の関係 (=係り受け) の理解について問う。

## ②「照応解決 (ANA)」

・「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すか (=照応) の理解について問う。

## ③「同義文判定 (PARA)」

・二つの文が同じ意味を表すかどうかを判断する力について問う。

## ④「推論 (INF)」

・文の構造を理解した上で、体験や常識、その他の様々な知識を動員して文章の意味を理解する力を問う。

## ⑤「イメージ同定 (REP)」

・文章と図形やグラフを比べて内容が一致するかどうかを認識する力を問う。

## ⑥「具体例同定【辞書、理数】 (INST)」

・文章で書かれた定義を読んで、それと合致する具体例を認識する能力を問う。

左の問題例は、「教育のための科学研究所」HPから見られます。



下記のポイントは、毎時間必ず取り入れなければならない活動ではなく、問題の意図を正しく捉えられるよう**学習場面に応じて取り入れたり、児童生徒の個に応じた指導に取り入れ**たりするなど、教師が目的に応じ、取捨選択し取り入れることが望ましい。

## 【授業改善のポイント】 ~上記の①~⑥の視点から考える~

### ①係り受け解析

- ・「それ」「これ」等、**指示代名詞が示す言葉**に下線を引ながら読み取らせる。
- ・主語が書かれていない文章 (書かれている文章についても同様) は、教師が**意図的**にその文章の**主語を問うたり、補うように指示したり**する。
- ・ (意味が分かるようになるまで) **繰り返し**読むよう指示する。
- ・文章を音読したり、視写したりする学習活動を取り入れる。

### ②照応解決

### ③同義文判定

### ④推論

- ・**言葉の定義や意味を正しくおさえた上で**、文章を読み取り考えたり、話し合ったりする活動に取り組めるようにする。  
(正しい定義や意味が分からないときは、**必ず調べる**よう指導する。)
- ・「ならば」「すべて」「いつも」「~のとき」「以外の」「ではなく」「もある」などの言葉の**正しい使い方**を身に付けさせる。
- ・「**~だから…です**」のように、既習事項等を根拠として、新しい知識を獲得していく場面をつくる。



### ⑤イメージ同定

### ⑥具体例同定

- ・文章を読み取る過程では読み取ったことを、整理したり考えを深めたりするために、**図的表現 (簡単な絵なども含む)** を用いて考えを進めるようにする。
- ・**意味が分からない言葉 (理解が曖昧な場合も)** が出てきたら、辞書やインターネットを使って調べる習慣を身に付けさせる。
- ・イメージや受け取り方が異なる「言葉」は、**具体的な様子**を全体で共有しておく。  
【例】「工夫して計算しよう」の「工夫して…」とは？
- ・新しく学んだ (理解した) **言葉を使って**文章を書いてみる。
- ・**指定された文章に合う図**やグラフを子供たちが選択するような場면을意図的に設ける。



~授業例~  
にせの定理を探せ  
(中2数学)

~授業例~  
オセロの実況中継  
をしよう  
(小4国語)  
図形を並べよう  
(小4算数)

**Point !** ~日々の授業で、教科書等を「正確に読むこと」を大切にしましょう~

- 問題提示・発問・板書計画・学習プリント作成など、**授業改善をRSTの視点から実施する。**
- 子供たちが**考える機会**をより多く設定すること。(正しく読まなければならないという必要感を大切に  
にした授業づくりについて)

★過去の研究や上記の授業例は、平成29・30年度戸田市教育研究集録を御参照ください。